

東京大学史料編纂所ミニ展示企画

## 「壬申検査関係写真」展

—東京国立博物館所蔵湿板写真ガラス原板に関する研究成果より—

2018年2月27日（火）～3月22日（木） 平日 10:00～16:30

於：東京大学史料編纂所1階展示ホール（玄関入って正面右手）

主催：「東京国立博物館所蔵湿板写真ガラス原板に関する基礎的研究」

共同研究チーム／東京大学史料編纂所古写真研究プロジェクト

東京国立博物館は、明治5（1872）年の湯島聖堂博覧会をもって設立とし、2022年には創立150周年を迎えます。湯島聖堂博覧会は、明治政府による殖産興業政策の推進とともに、翌年開催のウィーン万国博覧会への参加準備として行われました。さらにまた、ウィーン万国博覧会へ出品する文化財の選定を兼ねて、近代最初の文化財調査：壬申検査（壬申は明治5年の干支）が実施されました。東京国立博物館にはこの時期に撮影されたコロジオン湿板写真のガラス原板が豊富に残されています。とくに、写真家横山松三郎が同行して撮影した「壬申検査関係写真」は原板70枚が重要文化財に指定されています。



湯島聖堂大成殿

東京大学史料編纂所における2か年にわたる共同研究によって、東京国立博物館所蔵の湿板写真原板144枚の高精細デジタル画像化が実現しました。湿板写真の原板には高精細な驚くほどの情報量が含まれています。今回のミニ展示では、壬申検査関係写真を中心に、聖堂博覧会の写真を交えて、パネルやプリントでご紹介します。先人の足跡を、最新の技術でぜひご実感ください。



東大寺大仏殿（横山松三郎撮影）

共同研究代表者 遠藤楽子（東京国立博物館）

○湯島聖堂博覧会、東大寺、正倉院と正倉院御物、猿沢池と興福寺、法隆寺、信貴山寺、唐招提寺、春日社一の鳥居、名古屋城など、約20点の写真画像をご紹介します。

○このミニ展示は、東京大学史料編纂所の共同研究・共同利用研究拠点の一般共同研究の成果です。